

新発田市 令和 2 年度 第 9 回定例記者会見

- 1 日 時 令和 3 年 2 月 5 日（金）午前 11 時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室
- 3 内 容

- (株)ウオロク「移動販売車 とくし丸」を活用した見守り
- 食の循環によるまちづくりモデル地区「アップルシードル試作品完成」
- 「春 RUN 漫」しばたジョギング大会 in 加治川桜堤
- 「まちづくりドラフト会議 for Youth」最終プレゼンテーション
- 「発掘された文字 ～地下に埋もれたメッセージ～」展
- 新発田市明るい選挙推進「市民書初め大会」作品展

あいさつ

- 今の時期に雪が降ると、財政的にはハラハラしている状況です。一方で、新型コロナウイルスの関係では、1月に高齢者施設で感染者が発生し、収束に向かうかと思った矢先、2月に入り医療機関での感染者が発生し、驚きを禁じえませんが、ここが踏ん張り時だと改めて職員に指示しました。
- 昨日は市民の皆さんに注意喚起を徹底するため、エフエム放送や You-tube などを通じて、市民に問いかけているところです。情報収集を行いながら、収束に向かうようしっかりと対応し、努力をしていきたいと考えています。
- 新年度予算の概要がほぼ決定をしました。新型コロナウイルス、昨年 7 月の集中豪雨、今冬の除雪費のトリプルパンチで、大変難しい予算編成でしたが、何とか市民の皆さんに喜んでいただけるような予算が編成できたのではないかなということでもあります。
- 財政調整基金 30 億円が当市の健全財政の 1 つのバロメータであり、何とか堅持できたと安堵しているところです。ただ、新型コロナウイルスに関しては、市民の命を守りたい、基金 30 億円を切ることがあったとしても市民の暮らしを守るために、しっかりと対応していきたいと思っています。
- 新型コロナウイルスとの戦いと同時に、市内経済を守ることも大事です。月岡温泉、市内飲食店の皆さんは大変な状況にあります。県の警報が解除されるまでは、今得キャンペーンを含め対策を封印しているところです。

もしかしたら、市内限定のキャンペーンも考えていかねばならないと思っています。月岡温泉や市内飲食業の皆さんの実情をしっかりと伺いしたうえで、対策を練っていきます。いずれにしましても、市民の皆さんが明日の灯が見れるように行政運営を行ってまいります。

それでは、会見項目を説明します。

初めに、「㈱ウオロク『移動販売車 とくし丸』を活用した見守り」について

- この度、高齢者の見守り活動を支援いただくため、市内で移動販売事業を展開する株式会社ウオロクと当市で協定を締結することになりました。
- 同社で昨年 11 月から移動スーパー「とくし丸」を運行していますが、移動販売事業の拡大に向けた取組を進めています。ウオロクを創業された葛見藤江さんは、自転車で各家庭をくまなく回る自電車での行商により、地域の皆さんとの交流を深め、地域に愛される店舗へと結び付いたものです
- 移動スーパーが定期的に地域を訪れ、買い物を通じて、事業主と買い物客が交流するだけでなく、見守りにつなげていくことは、まさに、創業者の思いをつなぐものです。締結式は記者会見後に行いますので、お集まりの記者の皆さんには、ぜひ、取材いただき、PR してほしいと思っています。

次に、食の循環によるまちづくりモデル地区事業で「アップルシードルの試作品完成」について

- 新発田市独自の取組「食の循環によるまちづくり」、各地域の素材を活かして新たな地域活性化に結び付けようと、菅谷地区で取り組んできた「モデル地区推進事業」が令和 2 年度末で 3 年目の事業最終年度を迎えます。
- これまで取組を進めてきた成果の 1 つとして、菅谷産のりんごを使用した加工品アップルシードルの試作品が完成したとの報告がありました。
- アップルシードルは、長野県内にある醸造所で製造してもらったと聞いていますが、醸造過程で発生するりんご搾りかすは、あえて持ち帰り、当市の有機資源センターで堆肥化することで、「食の循環」も果たしたとのこ

とです。まだ、試飲していないので分かりませんが、菅谷りんごの持ち味を十分に引き出し、甘口、辛口の2種類を作製してもらったとのこと。

- ここに試作品がありますが、菅谷地区の嫁さん達が集まり、地域活性化を目指し活動している^アBO^ボDE^デ菅谷の皆さんがラベルデザインを担当、地元にある菅谷寺にちなみ、不動明王を意味するカンという梵字を中央に配したものです。
- 試作品は非売品で、実行委員会に参画している新潟食料農業大学の学生をはじめ、インターネットなどでアンケートを取り、今後、製造・販売に役立て、引き続き、取組を継続していく予定と聞いています。非売品とはいえ、商品にまで仕上げられたことはとても重要です。これをきっかけとして、菅谷地区の名が広く知れ渡る逸品にぜひとも育ててほしいと願うとともに、他の地域へも良い刺激になればと考えています。
- 最近では、SDG‘S 持続可能な社会づくりや、エシカル消費など、環境保全や社会貢献などの価値を商品選び、商品購入につなげる若い方が増えていると聞いています。地域特性を活かす事業としてだけでなく、食の循環によるまちづくりが新発田市の SDG‘S の取組にステップアップするきっかけづくりにもなったと考えています。

次に、「春 RUN 漫」しばたジョギング大会 in 加治川桜堤について

- 4月11日（日）、今年で6回目となる、『春 RUN 漫』しばたジョギング大会 in 加治川桜堤」を開催します。
- 昨年は、新型コロナウイルスの影響で中止しました。今年は参加者に満開の桜を眺め、思う存分、新発田の春の定番となったこのイベントを楽しんで、元気になってもらいたいと思っています。
- 桜堤の長さは昔ほどではないにせよ、今年は特に、残雪が多く残る二王子山を背景に、桜並木の景色を楽しみ、かつて「長堤十里世界一」と言われた加治川桜堤に思いを馳せてジョギングするのは楽しいはずです。天気が良ければ、インスタ映え間違いなしのロケーションになります。

○今回は、約 6 k m と約 10 k m のコースを設定しました。小学生以上で、コースを歩かない程度で完走できるであれば大丈夫です。定員は 250 人で、3 月 12 日（金）まで、参加者を募集します。順位を競う大会ではないので、気軽に参加してほしいと思っています。

次に、「まちづくりドラフト会議 ^{フォー ユース} for Youth」最終プレゼンテーションについて

○市内の高校や大学に通う若者たちを対象に実施している「まちづくりドラフト会議 for Youth」の最終提案の発表会を 2 月 5 日（金）、本日午後開催します。この取組は、市内の高校・大学で学ぶ学生たちが、日頃感じているまちの課題について具体的な解決策を考え、自ら提案するものです。

○事業を開始して今年で 3 年目。これまでに学生たちからは、街中にある空家を活用して高齢者と若者が交流する取組や、「たまり駅」の有効活用に向けた取組などがありました。

○当初は、提案はするけど誰かがやってくれるだろうというような他力本願的なものが多かったが、最近では、課題解決型の授業が行われている影響か、提案内容が主体的になり完成度が上がってきていると感じています。

○例年は 12 月頃に参加校が市役所に集い、中間プレゼンテーションを行ってきましたが、感染症拡大防止のため、今年は市の担当職員が各校に出向き、学生たちと意見交換を行うスタイルで進めてきました。今回、学生たちが市役所の議場で一堂に会する、最初で最後の機会となる、熱のこもったプレゼンテーションになることを期待しています。

○ぜひ多くの方々にご覧いただき、新発田の若者たちの頼もしさを感じる機会にしてもらいたいと思っています。

本日お知らせする情報は以上となります。

報道各社の皆様には、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますようお願いいたします。